

女子社員が同僚の男性社員と一緒に全裸健康診断へ！

会社の健康診断の日、2年目の島村紗季は朝、ベッドの中で喉の焼けるような違和感に目覚めた。体温計が39.5度を刻み、震える手で上司に電話をかけると、「ゆっくり休め。別日で受けられるよ」と穏やかな声が返った。「あー、ついてないな…まあ、別の日でもいいか」と呟き、紗季は布団に沈み込み、熱にうなされた。

同じ日、3年目の横田利奈も急なクライアント対応で健康診断を欠席。3日後、社内の廊下で病み上がりの紗季と顔を合わせ、「私もダメだった！ 別日、一緒だね」と明るく話しかけた。紗季も仲の良い利奈と同じタイミングで受けられることに、ほのかな安心と小さな喜びを感じた。いつも笑顔で支えてくれる利奈と一緒になら、少し気が楽だった。

数日後、総務部からメールが届いた。「女性用の枠は今月埋まってる。来週火曜の男性用枠なら空いてる。どうする？」紗季は深く考えず、「まあ、別にいいよね」と軽く了承。利奈も「さすがに場所は分けてくれるよね」と笑いながら同意し、2人は火曜の朝、指定のクリニックに向かった。

火曜の朝10時半、クリニックに足を踏み入れると、受付の女性がこう告げた。「島村さんと横田さんですね。お待ちしておりました。検査のため、向こうの待合室で服を全部脱いでください。」紗季は耳を疑い、「え…全部？ 裸？」と声が震え、心臓が締め付けられた。利奈も「今時、裸って…？」とシャツの裾を握りしめ、顔が青ざめた。「いくら男女別でも、こんなの…」不安が胸を刺し、2人は書類を受け取り、震える足で待合室へ向かった。

スライドドアが開くと、そこには全裸の同僚男性3人—高橋悠真、岡本直樹、山本大輔

一が立っていた。パンツすら履かず、剥き出しのおちんちんが堂々と揺れている。紗季と利奈の視線は思わず吸い寄せられた。羞恥と衝撃で息が止まり、頭が真っ白になった。